

高岡市総合計画第3次基本計画「まちづくり指標」進捗状況一覧表
(◎は総合計画まちづくり指標と総合戦略KPIを兼ねる指標)

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	担当課	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 (目標値)	H29年度 実績値	H30年度 (目標値)	H30年度 実績値	R1年度 (目標値)	R1年度 実績値	R1年度 達成率	R3年度 (目標値)	分析と対応	R2以降の取り組み内容等	3年間の分析と対応
1	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	①新たな事業活動の創出	◎創業件数(累計)	産業企画課	創業支援事業計画を基にする創業件数により算出(観光地及び中心市街地での開業件数を含む)5年間で600件の創業件数を指す	増加指標	件	159	120	149	240	311	360	561	155.8%	600	創業ツアー等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、商工会議所やTONIOなどの各支援機関との連携による切れ目のない支援により、目標を達成することができた。	順調にKPIを達成できていることから、引き続き創業支援事業計画に基づき、各支援機関と連携し、創業者の支援を行っていく。	継続した創業支援の取り組みにより、目標値を上回ることができた。引き続き創業件数の増加に向けて取り組みを進めていく。
2	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	②地域産業の競争力強化	◎新技術・新製品・新サービス開発件数(累計)	産業企画課	新分野開拓チャレンジ事業補助金の採択結果を基にフォローアップ毎年20件の増加を目指す	増加指標	件	7	20	11	40	14	60	15	25.0%	100	新技術・新製品開発補助金と、地域資源活用事業支援補助金の合計採択件数は1件/年であった。新技術・新製品の開発に係る事業は該当事業がなく目標の60件には及ばなかった。引き続き企業訪問等を通じて、案件を発掘する。	引き続き、市内企業の新技術・新製品の開発促進を支援していく。一方でTONIOファンド事業等、より有利な補助制度もあることから、企業訪問等を通して企業ニーズの把握に努める。	企業訪問等を通して制度の周知、案件の発掘を行っているが、より有利な補助制度があることも影響し、なかなか制度の活用結び付いていない。継続して企業訪問を行い、企業ニーズの把握に努め、制度の活用につなげる。
3	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	②地域産業の競争力強化	◎伝統産業の生産額	産業企画課	富山県の調査に基づく伝統的工芸品の生産額	維持指標	百万円/年	12,374	12,670	11,659	12,670	11,495	12,670	10,716	84.6%	12,670	ライフスタイルや嗜好の変化による個人消費の落ち込みなどにより、生産額が減少した。	引き続き、各伝統産業の生産額の維持、増加を目指し、各組合が積極的に活動できるよう支援していく。	平成29年11月に新たに「越中福岡の菅笠」が国の伝統的工芸品の指定を受けたことで市内の伝統的工芸品の指定品目数は増加した。一方、個人消費の落ち込みなどにより、生産額が減少した。
4	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	③産業基盤の整備・企業立地の推進	◎企業団地への進出企業数(累計)	産業企画課	企業団地への分譲実績を踏まえ、毎年2件の分譲を目指す	増加指標	社	3	2	4	4	4	6	11	183.3%	10	ICパーク高岡の分譲を開始し、R元年度のみで7社の進出が決定し、目標値を達成することができた。	今後も企業訪問等、企業立地推進事業の促進を図り、ICパーク高岡等企業団地の分譲完了に努めていく。	企業誘致等の取組により、四日市工業団地の分譲がH29年度に完了した。また、R元年度には、新たな企業団地である「ICパーク高岡」の分譲を開始し、7社の進出が決定したことで、毎年2件の分譲目標を大きく上回る実績となった。
5	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	④中小・小規模企業の経営基盤強化	◎専門家派遣利用企業数	産業企画課	高岡市中小企業支援専門家派遣事業補助金の交付実績を基に算出	維持指標	件/年	11	11	5	11	4	11	4	36.4%	11	企業訪問等を通じて、支援制度の活用を積極的に勧めているが、実際の活用結び付いていない。企業向けのメールマガジンや広報誌などを通じて更なる周知を図る。	企業向けのメールマガジンや広報誌などを通じて更なる周知を図るとともに、企業訪問によるニーズの把握に努める。	企業訪問等を通じて、支援制度の活用を積極的に勧めているが、実際の活用結び付いていない。企業向けのメールマガジンや広報誌などを通じて更なる周知を図る。
6	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	④中小・小規模企業の経営基盤強化	◎伝統産業の技術・技法の継承者が市内企業に定着する人数(累計)	キャリアセンター	高岡市伝統工芸産業希少技術継承事業補助金の交付対象者(継承者)の人数30年度まで毎年1人、31年度から2年に1人の増加を目指す	増加指標	人	1	1	1	2	2	3	2	66.7%	5	育成者の高齢化が進むなか、希少技術の継承が急務である。R元年度から本補助金を休止しているが、「高岡市伝統工芸産業人材養成スクール」のコース内容の拡充を図り、デザインから造形まで、トータルな工芸技術の習得を通して、次代を担う人材の養成に取り組んでいる。	R元年度から本補助金を休止しているが、「高岡市伝統工芸産業人材養成スクール」のコース内容の拡充を図り、デザインから造形まで、トータルな工芸技術の習得を通して、次代を担う人材の養成に取り組んでいる。	H29年度は28・29年度の2年間技術継承を受けた若手技術者が1名定着した。H30年度は29・30年度の2年間技術継承を受けた若手技術者が1名定着した。R元年度は本補助金を休止しているが、「高岡市伝統工芸産業人材養成スクール」のコース内容の拡充を図り、デザインから造形まで、トータルな工芸技術の習得を通して、次代を担う人材の養成に取り組んでいる。
7	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	⑤雇用・勤労者福祉の充実	◎合同就職面接会における就職率	産業雇用課	合同就職面接会に参加した求職者のうち採用された者の割合 直近3年の平均値を超える割合を維持する。	維持指標	%	12.2 (H25-H27の平均値)	13.0	17.9	13.0	17.2	13.0	10.4	80.0%	13.0	R元年度は、参加者数自体が減少しており、なおかつ、参加者の年齢構成が高めであったことから、企業の求人ともずれがあり、なかなかマッチングにいたらなかったものと推測される。今後も、広く周知を行い、参加者の確保を図る。	引き続き、合同就職面接会などを実施し、求職者と企業のマッチングを図る。	R元年度は、目標に届かなかったものの、3年間の平均は目標値を達成しており、引き続き事業を継続し、求職者と企業のマッチングを図る。
8	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	①農業の持続的発展	◎担い手への農地集積率	農業水産課	国の法律(農業経営基盤強化促進法)に基づき、担い手への農地集積を図る	増加指標	%	61	66	62.7	69	63.6	71	61.4	86.5%	76	関係機関と連携した担い手の連携・農業技術サポートの実施や、農地利用集積による効率的な経営体系への移行促進などの取り組みによる成果を挙げた。今後も、国の制度を活用しながら、さらなる担い手への集積に向けて支援を行う。	農地中間管理事業及び機構集積協力金の周知及び実施。人・農地プランの実質化へ向けた取組みを実施する。	関係機関と連携した担い手の連携・農業技術サポートの実施や、農地利用集積による効率的な経営体系への移行促進などの取り組みによる成果を挙げた。また、令和元年度から農地集積率の算出方法を国に併せて一部見直ししたことにより、集積率が減少した。今後も、国の制度を活用しながら、担い手への集積に向けて支援を行う。
9	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	①農業の持続的発展	◎6次産業化の新規事業取組者数(累計)	農業水産課	毎年1人の6次産業化新規事業取組者数の増加を目指す	増加指標	人	2	1	2	2	3	3	4	133.3%	5	目標値を達成しており、今後も6次産業化の取り組みへの支援を行う。	特産品開発アドバイザー派遣事業及び6次産業化普及支援事業を実施する。	平成29年度から毎年実績を挙げることができ、目標値を達成することができた。今後も新規事業取組者を増やすために、特産品開発アドバイザー派遣事業や6次産業化普及支援事業を実施し、6次産業化に取り組みやすい環境を整える。
10	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	②農山村の振興	◎都市農村交流事業による交流人口	農業水産課	市で把握する交流イベント(里山交流センター、自然休養村等)の参加者数	維持指標	人/年	7,700	7,700	2,764	7,700	2,050	7,700	2,318	30.1%	7,700	H29年度に自然休養村が廃止されたことから、目標値を大きく下回る状態が続いている。里山交流センターのイベントは継続して行っている。	市広報誌による里山交流イベントの周知を図っていく。	目標値に届かなかったが、里山交流センターのイベントや、体験農園への参加者は継続して確保できているので、引き続き参加者の確保に努める。また、目標値の見直しも検討する。
11	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	③林業の振興	◎里山の再整備面積	農地林務課	里山再生整備事業により実施した竹林等の整備面積の合計毎年15ヘクタールの整備を目指す	維持指標	ha/年	15	15	10	15	20	15	24	160.0%	15	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	事業のPRを引き続き行い、市民協働による里山林整備を推進していく。	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
12	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	④水産業の振興	◎アユ等の稚魚放流数	農業水産課	富山県の計画に基づく	維持指標	kg/年	3,605	3,605	2,705	3,605	2,650	3,605	2,787	77.3%	3,605	県から小矢部川漁業協同組合に対して指示される義務放流量の事業費に対して、支援している。目標値は達成していないが、平成30年度より、琵琶湖産アユより回帰率の高い富山県産アユを中心に放流している。今後も義務放流量の範囲内で、継続して支援を行うこととする。	県から小矢部川漁業協同組合に対して指示される義務放流量への支援を行う。	目標値に届かなかったが、平成30年度から回帰率の高い富山県産アユを中心に放流している。今後も、義務放流量の範囲内で支援を行う。
13	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	①文化財の保存・活用	◎歴史・文化施設入込者数(瑞龍寺、勝興寺、土蔵造りのまち資料館、鍾物資料館、伏木気象資料館、古城公園、御車山会館)	歴史・文化課	全体として5年間で約3%の増加を目指す	増加指標	人/年	1,175,372	1,178,000	1,124,660	1,190,000	1,149,436	1,201,000	1,109,437	92.4%	1,210,000	令和元年10月の台風の影響や、近年も旅行形態が個人や小グループなどにシフトしていること等により、前年度に比べ減少したとなった。今後は、可能な限りの感染症対策を取りながら、利用促進を図る。	可能な限りの感染症対策を取るとともに、展示内容等の改善を図り、来館者の満足度向上を目指す。	3年間とも目標値には一歩届かなかったが、資料館の展示替え等を実施してきた結果、着実に増加傾向にある。感染症の影響は当分続くと考えられるが、引き続き、来館者の満足度向上を目指し、取り組んでいく。
14	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	②歴史的風致の保全・活用	◎建築物等の修景実績件数(累計)	都市計画課	景観形成重点地区内及び住民協定区内の修景実績件数毎年3件の増加を目指す	増加指標	件	3	3	4	6	7	9	10	111.1%	15	修景補助については、一定程度の利用があり景観形成が図られている。しかし、景観基準などは10年前から変わっておらず、昨今の情勢に合わせた基準の見直しにより、景観形成の早期の実現に努める必要がある。	R2年度においては、景観基準の見直しと修景整備補助金の見直しを行う。	本事業については、関係地権者の方の協力なしには実現しない事業である。その中で、毎年一定数の利用があり、少しずつではあるが景観形成が図られている。
15	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている	①地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成	◎「TAKAOKA まちも、ものづくりも、ライブ」はご先祖様。」文化創造都市HPアクセス数	文化創造課	紙ベースでのPRの実施	増加指標	件/年	H28年度開始	22,000	25,134	24,000	26,001	26,000	29,979	115.3%	30,000	イベントと相乗効果を狙った記事を掲載するなどし、目標値を大きく上回って達成している。今後も継続して内容の充実及び広報に努める。	引き続き、SNSによる広報や、HPの改善により、より多くの方々にアクセスしやすいものとする。	記事内容の充実、HPの改善などにより、年々アクセス数が増えている。今後も、より安定的に増加するよう事業を継続し、これまで高岡市の歴史・文化に関心の低い層にも情報を届けることで、市民が自分ごととして主体的にまちづくりを行う意識の醸成を図る。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	担当課	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 (目標値)	H29年度 実績値	H30年度 (目標値)	H30年度 実績値	R1年度 (目標値)	R1年度 実績値	R1年度 達成率	R3年度 (目標値)	分析と対応	R2以降の取り組み内容等	3年間の分析と対応
16	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている	①地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成	高岡市万葉歴史館の入館者数	文化創造課	毎年約1,000人の増加を目指す	増加指標	人/年	24,290	26,000	23,783	27,000	22,736	28,000	63,336	226.2%	30,000	万葉集が元号「令和」の典拠となったことによる関心の高まりを捉えて、令和特別展示や館長特別講座の実施、「令和」の額をもって記念撮影できるスポットの設置など、積極的に改元記念特別事業に取り組んだ結果、目標値を大きく上回り達成している。今後も継続して内容の充実及び広報に努める。	R2～3年度に、常設展示室及び企画展示室を改修し、研究色の強い展示から、万葉入門者でも分かりやすい「見て学ぶ」「体験する」展示への転換、情報発信・交流の場としての活用を図ることで、更なる誘客効果を高める。	万葉衣装体験、組みひも体験をH29年度から開始するなど、幅広い客層に万葉集やその時代に触れ親しんでいたく取組みを実施してきた。H29年度とH30年度は目標を達成することができたが、令和改元を契機に新たな関心層を捉えることができた。今後も話題性のある事業展開と、展示室改修等により万葉歴史館の魅力の向上を図り、入館者層の拡大と、「万葉のふるさと高岡」への市民の愛着の醸成に努める。
17	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	①観光資源の発掘と保存・活用	◎高岡市の観光客入込数	観光交流課	各観光地及びイベントにおける入込数の合計値	増加指標	万人/年	380	400	377	420	385	450	371	82.4%	450	旅行形態が少人数化していく流れにあり、本市においても、その傾向が見えて取れ、観光客数を飛躍的に伸ばしていくのは困難な状況になっている。個人旅行や少人数の団体へ柔軟に対応できるように取り組みを推進する。	旅行業においては、密を避ける、対人距離2mを確保するという観点から、旅行の催行人員を少人数化していく必要が生じている。本市団体旅行誘致促進事業の助成を少人数規模の旅行形態に手厚くできるよう、要件を見直していく。また、引き続き、観光地としての認知やイベント等の認知度向上を図るため、出向宣伝や広告宣伝等に取り組む。	北陸新幹線開業後、観光客が増加したが、その後伸び悩んでおり、今後さらなる広報等に努める。
18	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	①観光資源の発掘と保存・活用	着地型旅行商品の参加者数	観光交流課	市内で着地型商品を取り扱う事業者への照会 毎年100人の増加を目指す	増加指標	人/年	2,067	3,500	9,092	3,600	7,481	3,700	3,434	92.8%	3,900	「富山湾館」を提供する店舗を立ち寄り先に入れ込んだ着地型旅行商品が人気であったが、その提供店舗の一つが閉店したことが減少の要因として挙げられる。今後は、特定の店舗に頼らない、「体験」や「周遊」を促す商品を作成し、積極的に売り込んでいく。	国の個人旅行需要喚起策と連動させ、まちなかフリー切符、体験と和菓子のついたお得なクーポン「高岡雅美」の販売を強化し、利用者数を増やしていく。	地域の強みを生かした着地型の商品作成を地道に実施してきており、地域資源を生かそうという機運が醸成されつつある。この機運を逃さず市内事業者に働きかけていく。
19	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	②広域観光の推進	旅行プログラムの販売人数	観光交流課	造成した旅行商品の購入者数(実売数) 毎年1,000人の維持を目指す	維持指標	人/年	-	1,000	937	1,000	1,271	1,000	1,346	134.6%	1,000	取り組みが定着してきており、安定的に販売人数を確保できている。引き続き、魅力的なプログラムを販売していく。	国の個人旅行需要喚起策と連動させ、伝統産業や歴史資源などの高岡ならではの魅力を売り込んでいく。	旅行形態が個人、小グループ化してきており、若い女性もターゲットとして浮かび上がっている。これらの人たちに「見て魅力的なコンテンツを充実させていく必要がある。
20	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	③イメージアップ・誘致活動の強化	観光ボランティアの利用者数	観光交流課	毎年1,000人の増加を目指す	増加指標	人	25,055 (H25-H27の平均値)	26,000	24,528	27,000	29,861	28,000	23,023	82.2%	30,000	台風被害による北陸新幹線の運休や、新型コロナウイルスの影響もあり、目標値を下回った。	引き続き、高岡の魅力発信に努め、誘客及びガイド利用につなげる。	各ボランティア団体の高齢化が進み、ガイドの人数の減少に伴い、参加者も減少する傾向にある。若い世代にもそのノウハウが継承されるよう、取り組みを回る必要がある。
21	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	③イメージアップ・誘致活動の強化	高岡関連PR記事等の掲載件数	広報情報課	雑誌、新聞、テレビ等で掲載された件数 毎年90件の掲載を目指す	維持指標	件/年	85 (H25-H27の平均値)	90	308	90	277	90	220	244.4%	90	テレビへの露出がH27の北陸新幹線開業をピークに減少に転じているが、WEBへの露出が年々増加しているという傾向がある。これは、ものづくり、歴史・文化(ユネスコ、日本遺産)、万葉、ドラえもんなどテーマを絞った発信を行ってきた波及効果であると分析している。H30以降は、これまでのノウハウを生かして県外メディア向けの定期的なプレスリリースを充実させてきた。	県外メディアへの定期的なプレスリリースを実施する。メディアへの積極的な情報提供や現地取材の受け入れを行っている傾向がある。	H27の北陸新幹線を契機として高岡市のメディア露出度が格段に増加し、露出度を維持していくために、高岡の強みをアピールしながら県外メディア(テレビ、雑誌など)とのコミュニケーションを深めてきた。その波及効果として比較的テーマが絞られたWEBサイトへの掲載へとつながっている傾向がある。
22	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	④国内・国外交流の推進	コンベンション誘致件数	観光交流課	各種団体や学会の全国大会・ブロック大会・スポーツ大会の合計値 3件の増加を目指す	増加指標	件/年	17	20	20	20	27	20	16	80.0%	20	下半期は新型コロナウイルスの影響もあり、中止となった学会等もあったため、目標値を下回った。	国が示す「新しい生活様式」への対応を見据えながら、大型コンベンションの実施手法の検討する。また、誘致活動の時期については、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見極め実施していく。	収束に向けた段階などに応じて、支援制度のPRなどとともに、まちの魅力を積極的に発信し、富山県コンベンションビューローとも連携しながら、効果的な誘致活動を展開する。
23	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	⑤インバウンドの推進	◎外国人宿泊者数	観光交流課	市内宿泊施設の宿泊した外国人の合計値(国の算出方法に準拠)	増加指標	人/年	8,823	8,000	8,522	8,000	10,511	8,000	11,394	142.4%	9,000	目標値を達成したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、プロモーションなど各種事業を打ち出すタイミングは、収束状況を判断しつつになる。	基本的には、これまで予定してきたインバウンド戦略のもと、これからの「新しい生活様式」など、安全・安心への対応なども意識しながら、時期を逸することなく積極的にプロモーションを展開していく。	3年間では増加傾向にあり、事業の推進が実を結んできているものと考えている。受入れ態勢を整えつつ、アフターコロナの動向を見極め、プロモーションを実施していく。
24	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	①商業・サービス業の振興	中心商店街・観光地周辺における新規開業店舗数	商業雇用課	中心商店街、観光地における開業支援件数(10件/年)※累計	増加指標	件	H28年度開始	10	14	20	26	30	40	133.3%	50	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	引き続き、開業支援事業により新規出店者や大家への支援を行う。	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
25	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	②中心市街地活性化の推進	中心市街地・観光地周辺における歩行者通行量(1日あたり)	商業雇用課	高岡駅前(人工デッキ)、末広町(東)、末広町(西)、御旅屋通り、大仏前、山町筋観光駐車場前の6地点の平日、休日の平均値の合計(毎年10月調査)	増加指標	人/日	16,670	17,100	18,229	17,100	17,517	17,560	14,425	82.1%	17,670	昨年度に比べ著しく減少し、新幹線開業以前の通行量まで後退した。文苑堂駅前店や大和高岡店の閉店が大きく影響していると考えられる。今後は中心市街地の賑わいを回復させる具体策の検討及び実践を行う。	セリオタウン構想やリノベーションまちづくり等の進展、まちなかへの誘引性の高いイベントに取り組んでいく。	商店街の百貨店での物産イベントや、地域イベント等の関係により高い数字を保っていたが、百貨店退店後、著しく減少した。今後は、セリオタウン構想やリノベーションまちづくり等の進展など具体策の検討及び実践を行い、中心市街地の賑わい創出を図る。
26	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	③市街地の整備	市街地整備区域内の居住人口	都市計画課	末広西地区 住宅戸数84×人数2	増加指標	人	-	0	0	168	196	168	196	116.7%	168	H30年度で完工(竣工)、整備戸数分ほぼ満室状態であると聴いており、この状態を維持していく。	他地区ではあるが、マンション建設が行われており、引き続き中心市街地の居住人口対策に支援する。	当初計画より整備戸数が増加したことで、大幅に目標値を上回った(84戸→98戸)
27	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	④住宅・宅地の整備	◎まちなか居住推進総合対策事業に伴う定住人数	建築政策課	5年間で300人の増加を目指す(毎年60人ずつの増加)	維持指標	人/年	60 (H25-H27の平均値)	60	67	60	86	60	50	83.3%	60	R1年度からたかおか暮らし支援事業として事業を継続している。まちなか区域では、中古住宅の購入やリフォームの支援が新築に比べ利用件数が少ないため、空き家の流通等が促されるよう制度の周知等に努める。	事業の周知を引き続き行い、まちなか区域の居住促進を行う。	各年度ごとに定住人口にばらつきはあるものの、3年間の実績としては基準値を超える値となっている。
28	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	④住宅・宅地の整備	老朽危険空き家の解体を行う者への補助件数	建築政策課	実績を積み上げながらH33には8件の補助を目指す	増加指標	件/年	5	6	13	6	11	7	8	114.3%	8	目標値を達成しており、引き続き事業を行う。	空き家対策の業務を通して把握した老朽危険空き家について、除却を促進し、まちの整備に資する。	3年間目標を達成しており、引き続き事業を継続する。
29	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	⑤良好な都市景観の創出	違反屋外広告物等の是正件数	都市計画課	違反屋外広告物及び既存不適格広告物に対して指導等し、是正された件数の確認をする	増加指標	件/年	4	10	10	10	11	10	15	150.0%	10	違反屋外広告物について、これまでは是正指導をしてきた結果、事業者の方々の理解と協力を頂くことができた。	今後も違反屋外広告物の是正に向け事業者等へ指導していく。	3年間、目標値に対し実績値が上回った。引き続き是正に向けて指導していく。
30	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	①高岡駅・新高岡駅周辺の一体的整備	公共交通乗車人数(JR西日本、あいの風とやま鉄道、万葉線、路線バス、コミュニティバス)	総合交通課	各交通事業者公表値より	維持指標	人/日	25,319	25,310	24,605	25,770	24,445	25,610	23,762	92.8%	25,430	新幹線開業以降、観光誘客等の新幹線利用促進の積極的な取り組みにより、新幹線利用者数は増加傾向であったが、台風や新型コロナウイルスの影響により減少に転じている。また、万葉線、路線バス等は利用者数は減少傾向にあることから、利用数を高める施策が必要である。	誘客促進による新高岡駅利用の増加を図るとともに、モビリティマネジメントの推進、市民協働型交通システムの周知等市民一人ひとりが公共交通を維持する意識をもってもらい、地域・事業者と連携しながら地域公共交通を維持していく。	人口減少・少子高齢化により、全体としては利用者数が減少傾向にあるものの、北陸新幹線開業に伴い新高岡駅・高岡駅の利用者数は増加するなど広域交通利用者割合が増えてきている。一方、地域交通においては、維持に向け、地域事業者と連携しながら、持続可能な交通体系を構築していく。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	担当課	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 (目標値)	H29年度 実績値	H30年度 (目標値)	H30年度 実績値	R1年度 (目標値)	R1年度 実績値	R1年度 達成率	R3年度 (目標値)	分析と対応	R2以降の取り組み内容等	3年間の分析と対応
31	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	②高速道路網・幹線道路網・地域公共交通体系の整備	◎公共交通人口カバー率	総合交通課	H27国調人口データを基に算出(総合交通戦略策定時データ参照) タクシー除く	増加指標	%	79.9	80.7	74.8	81.1	77.2	81.4	-	#VALUE!	82.2	人口減少による対象人口縮小の影響もあるが、新幹線開業による城端線の増便や新高岡-高岡間の路線バスなどの運行維持を図る。	路線バス維持のための利用促進策を実施する。コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりを進め居住の誘導を図る。地域バス・地域タクシー等の市民協働型交通システムの導入を促進する。	コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくりに向け、公共交通ネットワークの維持に努め、居住の誘導を図るとともに幹線とつなぐ市民協働型交通システムの導入を促進する。
32	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	②高速道路網・幹線道路網・地域公共交通体系の整備	都市計画道路整備率	道路整備課	都市計画道路延長に対する改良済延長の割合	増加指標	%	77.1	78.1	77.7	78.6	77.8	79.1	集計中	#VALUE!	80.1	8月ごろに実績が確定する。	引き続き、国・県に対して事業の促進を働きかけていくとともに、市においても着実に事業を推進していく。	事業化路線については、着実に整備が進捗しており、概ね目標値は達成している。引き続き、国・県に対して事業の促進を働きかけ、市の事業については、「選択と集中」の考えの下、幹線道路網を形成する都市計画道路については着実に事業を推進していく。
33	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	③港湾の整備・活用	船舶の寄港数(クルーズ客船・RORO船)	みなと振興課	毎年10～13件の寄港を目指す	増加指標	隻/年	7	10	4	11	5	11	2	18.2%	13	全国的にクルーズ船の誘致活動が盛んになっており、日本海側では金沢港の寄港数増加傾向が顕著である。クルーズ船は西回り航路が多く、伏木港に寄港するには能登半島を回り込む必要があるため、運航時間が長くなり寄港地での滞在時間が短くなる。また、金沢港との背後観光地の重複がある。今後、東回りのクルーズを誘致するためにクルーズ客向けの新たな寄港地観光プランの造成に向けて、関係機関と協力しながら取り組みを進める。	国内のクルーズ船社等へ市長トップセールスをはじめ、県や各種団体と連携し、担当者レベルにおいても船社等の訪問による誘致活動の実施を継続する。今後、東回りのクルーズ客船の寄港時には、乗船客の誘導体制や観光案内体制をさらに強化し、乗船客の満足度の向上に努めていく。	県や他港との連携により、船社のキーパーソンが市内を訪れ、視察いただく機会は増加傾向にある。今後の寄港数に向けて、取り組みを継続していく。
34	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	④広域連携の推進	◎「呉西圏域」都市圏ビジョン記載連携事業の実施数	都市経営課	H33度までに30事業の実施を目指す	増加指標	事業	H28年度開始	28	24	29	26	29	30	103.4%	30	H30年度までの協議が実を結び、4月に「呉西地区成年後見センター」が開所した。R1年度以降は運営委託費を予算計上しており、市民後見人バンクへの登録者数も想定を超えるなど、順調なスタートを切った。ビジョンの第2回改訂にて、「地図情報デジタル航空写真共同撮影事業」を新たに追加し、全部で33事業となった。R1に5市による撮影業務を実施した結果、コスト削減につながった。	R2年度中に第2期とやま呉西圏域都市圏ビジョン(R3～R7)を策定し、引き続き6市連携の枠組みを継続する。大事業ベースで第1期の33事業を29事業に再編し、新規事業を1事業加えた計30事業で、第2期の新たな5力年計画に沿った取り組みを展開していく。	最も大きな成果としては、「呉西地区成年後見センター」の開所が挙げられるが、法人後見業務の実績はR1年度末時点で0件である。今後、裁判所からの案件紹介による実際の後見業務が期待される。R元年度にはH28～H30の3年間を対象としたビジョンの中間評価を実施しており、圏域全体の経済成長のけん引に係る指標は堅調であった。引き続き、6市の連携をさらに深め、地域経済の活性化や交流人口の拡大、定住の促進を図ってきたい。
35	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	①教育・保育の一体的提供の推進とサービスの充実	認定こども園の設置数	子ども・子育て課	5年間で10園を認定こども園に移行していく	増加指標	園	4	8	9	9	11	10	16	160.0%	14	目標値を達成しており、今後も移行を推進する。	引き続き、認定こども園への移行を推進し、教育と保育を一体的に受けられる環境づくりを推進する。	認定こども園への移行を予定していた園が、順調に移行した。3年間目標値を達成しており、引き続き移行を推進する。
36	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	①教育・保育の一体的提供の推進とサービスの充実	病児保育(病児対応型及び病後児対応型)事業実施施設数	子ども・子育て課	保育園または病院で1か所増	増加指標	施設	3	3	3	3	3	4	5	125.0%	4	目標値を達成しており、各施設において病児保育を実施する。	病児保育施設の空き情報が分かるシステムの構築を図るなど、より使いやすしいサービスとなるよう努めていく。	R元年度には、病児保育施設を2か所増加させ、目標を達成した。今後も、サービスの充実に取り組んでいく。
37	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	②新たな子育て情報提供システムの構築	スマートフォン用子育て情報提供アプリの登録者数	子ども・子育て課	年間妊娠・出生件数約1,300件を参考として、H33までにその父母の6割の利用登録を目指す	増加指標	人	H28年度開始	3,000	1,403	5,500	1,850	8,000	2,233	27.9%	9,000	計画策定時から出生数が低下していることに加え、第2子以降を妊娠・出産された方は、第1子の妊娠・出産時に既にアプリを登録している場合があることや、目標値は、父母ともに登録することを前提に設定したものであるが、父母のいずれか一方が登録していれば必要な情報が得られることなど、目標値を設定した際の想定と実態にかい離が生じたことが目標値を下回った主な原因であると分析している。今後、アプリの周知方法の改善や発信内容の充実により登録者の増加につなげる。	広報紙へのアプリの案内掲載(QRコードによるリンク)や、職員の名刺の裏にアプリPRシールを貼り付ける取り組みを継続するとともに、両親のどちらにも登録いただけるよう、父親も参加する育児教室等でPRチラシ配布や父親向けの情報発信を強化するなど、周知方法の改善や発信内容の充実を図り、登録者の増加につなげる。	計画策定時から出生数が低下していることに加え、第2子以降を妊娠・出産された方は、第1子の妊娠・出産時に既にアプリを登録している場合があることや、目標値は、父母ともに登録することを前提に設定したものであるが、父母のいずれか一方が登録していれば必要な情報が得られることなど、目標値を設定した際の想定と実態にかい離が生じたことが目標値を下回った主な原因であると分析している。今後、アプリの周知方法の改善や発信内容の充実により登録者の増加につなげる。
38	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	②新たな子育て情報提供システムの構築	子育てに関する相談対応件数	子ども・子育て課	子育て支援センター等にて対応した相談件数	維持指標	件/年	4,664	4,700	5,437	4,700	5,280	4,700	4,959	105.5%	4,700	昨年度より値が減少した原因として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、3月2日から3か所すべて休所していたことが考えられる。毎月計450件前後の相談があり、目標値も達成しているが、今後も対応できる体制づくりを行う。	引き続き、保護者の様々な相談に対応できるよう、相談者の資質向上を図る。	保護者が安心して子育てができるよう、不安や悩みを十分に受け入れ、様々な相談に対応できるよう努め、3年間目標値を達成した。今後も、保護者が気軽に相談でき、保護者の子育ての不安等を軽減できるよう、柔軟に対応していく。
39	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	③安心して妊娠・出産・子育てができる体制の充実	◎子育てへの不安・負担度	子ども・子育て課	毎年度、支援の実感度を評価するアンケートを実施 H25調査の41.7%を参考値として設定	減少指標	%	41.7	34.0	38.6	32.0	50.7	30.0	43.3	55.7%	28.0	本市では保育所等の待機児童はいないものの、一部の地域では希望する保育所に入園できない、放課後児童クラブの待機児童が発生している等の課題がある。今後も、引き続き、保育所等の利用定員の増加や放課後児童クラブ等の整備等を実施し、数値の改善に努める。	保育園や認定こども園等の増設・整備などにより保育環境の充実を図る。放課後児童クラブについては、今後利用者数が増える校区について受入態勢の確保に努め、待機児童の解消を図る。	認定こども園への移行整備や保育園の整備などにより、主に0～2歳児の保育体制の充実を図ってきた。今後も、低年齢児の受け入れ態勢の充実を図る。放課後児童クラブについては、公設によるクラブ整備に加え、民間事業者が開設したクラブへの支援を行った。今後も各校区のニーズなどを勘案しながら、受入環境の確保に努める。
40	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	③安心して妊娠・出産・子育てができる体制の充実	生後3か月までの乳児のいる家庭訪問率	健康増進課	訪問件数/対象家庭数×100 新生児訪問やこどもには赤ちゃん訪問等を行う	維持指標	%	99.7	100	99.9	100	99.7	100	99.4	99.4%	100	保護者と連絡が取れず、訪問できなかった方はいるが、3ヶ月健診受診の際等に状況を確認し、支援の必要な方については対応した。	引き続き、対象者全員に訪問を実施し取りこぼしがないようにする。	保護者と連絡が取れず、訪問できなかった方はいるが、ほぼ対象者全員に訪問することができた。訪問できなかった場合でも、その後の3か月児健診等の母子保健事業において支援を行った。
41	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	④地域の子育て力の応援	◎子育て支援の実感度	子ども・子育て課	毎年度、支援の実感度を評価するアンケートを実施 H25調査の43.3%を参考値として設定	増加指標	%	43.3	47.7	55.7	48.8	37.8	50.0	49.9	99.8%	52.0	本市では保育所等の待機児童はいないものの、一部の地域では希望する保育所に入園できない、放課後児童クラブの待機児童が発生している等の課題がある。今後も、引き続き、保育所等の利用定員の増加や放課後児童クラブ等の整備等を実施し、数値の改善に努める。	保育園や認定こども園等の増設・整備などにより保育環境の充実を図る。放課後児童クラブについては、今後利用者数が増える校区について受入態勢の確保に努め、待機児童の解消を図る。	認定こども園への移行整備や保育園の整備などにより、主に0～2歳児の保育体制の充実を図ってきた。今後も、低年齢児の受け入れ態勢の充実を図る。放課後児童クラブについては、公設によるクラブ整備に加え、民間事業者が開設したクラブへの支援を行った。今後も各校区のニーズなどを勘案しながら、受入環境の確保に努める。
42	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる	④地域の子育て力の応援	平日の19時までの開所が可能な放課後児童クラブの数	子ども・子育て課	クラブ運営規程にて、「19時までの開所」を規定しているクラブ数を基に設定	増加指標	クラブ	2	4	2	6	2	8	3	37.5%	10	放課後児童支援員及び補助員が不足しており、長時間開設できる受入態勢が整っていないため、支援員の確保に努める。	引き続き公設クラブの支援員等の確保に努めるとともに、民間活力の活用を検討しながら、長時間開設可能な受入体制を整えていく。	目標値を達成することはできなかったが、19時まで開所可能なクラブ数は増加した。引き続き、公設クラブ支援員の確保や民間クラブの活用により、長時間開設が可能なクラブ数の増加に努めていく。
43	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	①確かな学力・豊かな心・健康やかな体をはぐくむ教育の推進	教員研修評価アンケートにおける満足率	学校教育課	研修会後の教員アンケート	増加指標	%	H28年度開始	70	97	75	98.2	75	97	128.7%	80	外国語教育やICTの活用等、教員や社会のニーズにあった研修を企画し、実践的な指導力向上を目指した。	R3年度からの中学校新学習指導要領の実施や小中一貫教育を視野に入れ、教員の資質向上と専門的な力を高める研修を実施する。	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
44	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	①確かな学力・豊かな心・健康やかな体をはぐくむ教育の推進	児童・生徒1人あたりの学校図書貸出冊数	学校教育課	月平均の児童・生徒の学校図書貸出冊数	増加指標	冊/月	H28年度開始	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.6	92.3%	4.0	各学校、図書担当教諭、学校司書を中心とし、各校の特色を生かし、児童生徒の読書活動の充実に取り組んだ。貸出数が減少したのは、3月の新型コロナウイルス感染症拡大防止の臨時休業で貸出ができなかったことが原因と考えられる。	学校司書研修等を充実させ、効果的な取り組みを紹介し、情報を共有する機会を設定し、向上に取り組む。	学校司書の研修を定期的に行ったり、各校の効果的な取り組みの情報を共有している。中学校における貸出数が少ないため、小学校での取り組みを中学校でも生かすことで、目標値達成につなげていく。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	担当課	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 (目標値)	H29年度 実績値	H30年度 (目標値)	H30年度 実績値	R1年度 (目標値)	R1年度 実績値	R1年度 達成率	R3年度 (目標値)	分析と対応	R2以降の取り組み内容等	3年間の分析と対応
45	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	①確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくむ教育の推進	学校給食に使用する地場産食材の品目	学校教育課	食育と地産地消を推進するため、地場産食材(青果物)品目を26品目以上に設定	増加指標	品目	24	26	24	26	23	26	24	92.3%	26	出荷時期と学校給食での使用時期が合致しなかった品目、また、天候の影響・生育状況により確保できなかった品目があった。一部の学校で新規使用品目も開拓できた。	農業水産課担当者やJA高岡と連絡を密に行い、学校給食での使用時期の情報を共有する。また、生産量が少ない品目については、一部の学校での使用を増やすなど可能な限り地場産食材を使用する。	年々新たな品目を増やしてきている。しかし、生産者が生産をとりやめた品目があったり、天候の影響や生育状況により使用できなかったりなどの理由から、目標には至らなかった。
46	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	①確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくむ教育の推進	英検3級以上を取得している中学3年生の割合(英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒を含む)	学校教育課	英語教育実施状況調査による5年で約100人の増加を目指す(H27市内中学3年生数(約1,500人×6%) + α)	増加指標	%	48	50	53	50	56.6	52	55	106.3%	54	小・中学校の教員を対象とし英語・外国語活動指導研修会等を実施し、英語・外国語活動の授業改善や指導力向上に取り組んだ。	小中一貫教育を見据えた指導の留意事項の検討や、学校訪問研修等を通して、教員の指導力向上を図る。	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
47	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	②地域に開かれた特色ある教育活動の充実	◎郷土に誇りをもつ心を育むことができた児童生徒・教員の割合(児童・生徒)	学校教育課	ものづくり・デザイン科学習後のアンケート高水準である90%を維持	維持指標	児童・生徒%	90	90	92.0	90	92.2	90	90.9	101.0%	90	学校、組合、指導講師等の連携により、児童生徒がふるさと高岡のよさを感じながら、一人一人が主体的に作品づくりに取り組むことができた。	小学校5、6年生の2年間で一つの作品を作ることになる。中学校では、小学校での学びを生かした授業につなげていく。そのため、各学年のねらいや評価をより明確にして児童生徒が主体的に活動できるように指導の工夫を必要とする必要がある。	これまで、学校、組合、指導講師の強固な連携により、児童生徒の満足度が高い取組となっている。今後も郷土学習と関連を図りながら、郷土に誇りと愛着をもつ心の育成に努めていく。
48	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	②地域に開かれた特色ある教育活動の充実	◎郷土に誇りをもつ心を育むことができた児童生徒・教員の割合(教員)	学校教育課	ものづくり・デザイン科学習後のアンケート高水準である90%を維持	維持指標	教員%	90	90	96.0	90	92.4	90	92.7	103.0%	90	他教科の学習内容が増え、授業確保が難しい現状の中、児童生徒が郷土に誇りや愛着をもって活動できるよう、指導の工夫を重ねてきた。その結果、教員自身が学習の価値を改めて感じ、ものづくり・デザイン科授業に対する充実感や満足感が高くなっている。	R2年度からの「ものづくり・デザイン科」授業の全体構想について周知していく。市教委から配布した参考事例を元に授業を各学校が実施したり、デザイン授業の実践を各学校間で情報交換できる場を設定するなどして、各学校の実態に合わせたデザイン授業が展開できるようにしていく。	これまでの授業の実践の積み重ねから、教師がものづくり・デザイン科授業の教育的効果を感じている。若手教員にも教職員研修を通して、「ものづくり・デザイン科」のねらいや意図を引き続き周知していく。
49	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	③教育効果を高める教育環境の充実	余裕教室の活用数	教育総務課	小学校の余裕教室で開設している放課後児童クラブ室の数H33までに12室の増加を目指す(41室で利用想定児童数を網羅予定)	増加指標	室	12	17	16	20	21	23	21	91.3%	26	余裕教室でのクラブ開設について希望があった場合には、学校運営に特段の支障がない限り承認してきており、設置数は総体的には増加傾向にある。一方で、近年、学級数が急増し余裕教室がなくなりつつある学校も見受けられ、今後、これらの学校については、屋外プレハブ室等への移転が必要になる可能性がある。	新たに放課後児童育成クラブの開設の希望がある場合、学校運営上、支障がない範囲で可能な限り教室での開設を承認する。	開設を希望する放課後児童育成クラブが見込みより少なかったため、目標が達成できなかった。今後、希望が出てきた場合には、これまで同様、学校運営に特段の支障がない限りは承認する。
50	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている	④高等学校・高等教育機関の充実・連携	大学と連携した事業への参加者数	都市経営課	高岡市と大学との協定等に基づいて実施する事業を抽出100人の増加を目指す	増加指標	人/年	260	360	448	360	350	360	396	110.0%	360	学生数は減少しているが、日本法政学会等新規事業への参加により前年比プラスとなった。新たな連携事業について高等教育機関と協議するとともに、事業の着実な実施に努める。	従来の連携事業に加え、オープンキャンパス等、新たな連携事業について高等教育機関と協議を進める。	H30年度目標未達であるが、累計値では目標達成した。各大学と連携し、新たな連携事業の策定、事業のPRを引き続き行い、参加者数を確保していく。
51	子育て・教育	10 いくつになっても興味のあることを気軽に学べている	①ライフステージに応じた生涯学習の振興	生涯学習センターの利用者数	生涯学習・文化振興課	年間のホール、講堂、コーナリ利用者数	増加指標	人/年	254,131	256,000	238,017	257,000	268,144	258,000	256,290	99.3%	260,000	R2年2月までは利用者数は昨年度に比べて増加傾向にあったが、3月の利用者数は新型コロナウイルスの影響により激減した。新型コロナウイルス対策を徹底し、今後も事業を継続する。	館内のLED化を5年計画で実施する。手指消毒剤の設置等、新型コロナウイルス対策を行う。	3年間目標値をおおむね達成している。今後も、施設の機能を維持(修繕)しながら、幅広いニーズに対応できるようサービスの向上に取り組む。
52	子育て・教育	10 いくつになっても興味のあることを気軽に学べている	②未来を担う世代の育成と若者が主体となるまちづくりの推進	土曜学習の実施学校数	生涯学習・文化振興課	実績の積み上げを見ながら、5年間で5校区数の増加を目指す	増加指標	校	8	14	14	15	15	16	16	100.0%	18	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	令和2年度は新たに実施校を1校(南条小)を増やし、土曜学習の充実を図っていく。	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
53	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツを楽しんでいる	①生涯スポーツ活動の充実	体育施設の利用者数	スポーツ課	スポーツ施設の利用促進のPRや市民ニーズに応じた施設整備、改修等により5年間で5%の増加を目指す	増加指標	人/年	836,440	840,000	790,929	845,000	791,777	850,000	742,115	87.3%	878,850	R元年10月からの休館日の設定や施設利用料の値上げにより利用数減となった。また、新型コロナウイルス感染症対策として、3月は一部施設の利用を停止とした。	新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成。安定した開放環境を整える。	計画期間(5年間で)5%増(年1%増)の目標を設定している中で、3年間で3%増に届いていない。これは新型コロナウイルス感染症による休館、休業日の設定、利用料金の改定が主な理由と考えられる。これからは利用者のニーズに対応した施設運営に取り組んでいく。
54	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツを楽しんでいる	②スポーツ施設の充実と効率的な活用	学校体育施設開放の利用者数	スポーツ課	5年間で5%の増加を目指す	増加指標	人/年	341,340	348,450	322,600	351,900	322,771	355,350	291,932	82.2%	362,250	新型コロナウイルス感染症対策として、3月はすべての学校開放を休止としたため、目標値に達しなかった。	新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成。安定した開放環境を整える。	計画期間(5年間で)5%増(年1%増)の目標を設定している中で、3年間で3%増に届いていない。これは少子化に伴いスポーツ少年団の減少などスポーツをおこなう方の減少が主な理由と思われる。これからは体育館の2面同時利用などを促進するとともに、グラウンド等の利用者増加を促進したい。
55	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	①地域福祉の推進	福祉ボランティア登録人数	社会福祉課	高岡市ボランティアセンター登録人数 毎年、12,000人維持を目指す	維持指標	人/年	11,396	12,000	10,796	12,000	11,923	12,000	10,606	88.4%	12,000	目標値には達成していない。この状況の要因としては、会員の高齢化により活動継続できない団体が出ていることや、定年延長等雇用年齢の拡大にともない、ボランティア活動を始める年齢が高くなっていること等が考えられる。	引き続き、ボランティア養成講座(アクティブシニア・ボランティア大学)を実施し、身近で活動している団体での体験等を通してボランティア活動への機会提供とその魅力を伝える事業を実施する。	各年度とも目標値を達成していないが、ボランティア登録人数が活動内容によって増減しているものと思われる。継続的な活動に限らない活動も出てきていることから、新たに参加する方が増える魅力的な活動を紹介していく必要がある。
56	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	②障がい者(児)福祉・自立支援対策の充実	障がい者相談支援センター相談件数	社会福祉課	気軽に相談できる体制づくりを目指し、毎年11,000件の維持を目指す	維持指標	件/年	10,855	11,000	13,579	11,000	15,345	11,000	15,088	137.2%	11,000	目標値を達成しており、今後も継続して事業を実施していく。	引き続き相談支援事業所での相談事業を実施する。	各年度とも目標値を達成しており、今後も継続して事業を実施していく。
57	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	②障がい者(児)福祉・自立支援対策の充実	年間新規就労者数	社会福祉課	民間作業所・障がい者雇用支援事業団・特別支援学校から就労した人数 毎年50人を目指す	増加指標	人/年	34	50	26	50	32	50	集計中	#VALUE!	50	民間事業所からの新規就労者に関しては県が秋ごろに調査することになっている。	障がいのある人の雇用分野における差別の解消と障がいのある人が地域で暮らせる社会の実現のため、労働、福祉、教育などの関係機関と連携しながら就労支援を実施しているが、通勤や就労後の生活支援が必要なケースも多く、引き続き、関係機関と連携しながら、支援していく必要がある。	高岡市地域共生社会推進協議会 就労支援部会における活動を中心に、労働、福祉、教育などの関係機関と連携しながら就労支援を実施しているが、通勤や就労後の生活支援が必要なケースも多く、引き続き、関係機関と連携しながら、支援していく必要がある。
58	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	認知症サポーター養成数	高齢介護課	養成講座の受講者数をH29～H31は年間1,500人、H32、H33は年1,000人を目指す	増加指標	人	12,039	15,000	15,906	16,500	17,344	18,000	19,015	105.6%	20,000	認知症に対する理解者を更に増やす取組みとして、日頃高齢者と接する機会が多い、スーパーやコンビニ、ドラッグストア等の商店企業等を対象とした講座開催をH30年度から実施(年2回)した。R元年度も引き続き、理容院、美容院、医療機関等を対象に実施(年2回)した。また、これまでも取り組んできた小学校等教育施設等へも継続的に受講を呼びかけて開催する等、あらゆる分野の機関・団体等に積極的に受講の働きかけを行い、目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	今後、認知症高齢者数の増加を見据え、地域全体が認知症を正しく理解し支えていく、地域共生の観点から、様々な民間企業等に対し講座の受講を働きかけていく。また、職場環境により受講が難しい場合には、認知症の啓発用チラシ等を作成・配布するなどの対応を検討していく。	毎年約1,500人ずつ養成しており、3年間の目標値は達成していたが、毎年、登録者数が増加する傾向は見られなかった。R1年度には初めて登録削除数(32件)が新規登録者数(25件)を上回った。事業対象者の現状把握を行う等、事業内容の検討が必要であると考えられる。
59	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	認知症高齢者等SOSダイヤルシステム登録者数(旧:徘徊SOSダイヤルシステム)	高齢介護課	毎年20人の登録者を目指す	増加指標	人	117	160	146	180	167	200	159	79.5%	250	認知症に関する相談対応を行う地域包括支援センターや居宅介護支援事業所へ事業説明を行い、必要な高齢者の登録促進を図っている。認知症高齢者の増加を見込んだ目標値の設定をしているが、目標値には達していない。引き続き必要な方への事業周知を図る。	地域包括支援センターや居宅介護支援事業所が事業説明時や相談時の情報提供、啓発時に使用できるようなチラシ等を作成し、普及啓発を行っている。また、登録が必要な状態である高齢者の利用状況等の把握や分析等、事業の検証を行っていく。	認知症高齢者数の増加を見込み事業の目標値を設定していたが、毎年、登録者数が増加する傾向は見られなかった。R1年度には初めて登録削除数(32件)が新規登録者数(25件)を上回った。事業対象者の現状把握を行う等、事業内容の検討が必要であると考えられる。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	担当課	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 (目標値)	H29年度 実績値	H30年度 (目標値)	H30年度 実績値	R1年度 (目標値)	R1年度 実績値	R1年度 達成率	R3年度 (目標値)	分析と対応	R2以降の取り組み内容等	3年間の分析と対応
60	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	介護予防日常生活総合事業における住民主体の通いの場の立ち上げ数	高齢介護課	H33までに50カ所の通いの場立ち上げを目指す	増加指標	カ所	20	30	47	40	90	40	100	250.0%	50	住民主体の通いの場の立ち上げ促進を目指し、R元年度から立ち上げ実施団体に補助金を交付した。また、地域で会議を開催し、介護予防のための立ち上げの必要性等を説明し、住民への啓発を実施した。世話役となる住民がいないことにより、立ち上げ難しい地区もあることから、担い手の確保等について検討が必要となる。	活動の担い手がおらず、通いの場の立ち上げが進まない地区があることから、民間事業所を活用した介護予防活動の場づくり等を進める。	通いの場の箇所数は年々増加しており、目標値を達成することができた。今後、さらに通いの場の箇所数を増やし、介護予防活動に参加する高齢者数を増やしていく。
61	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	介護予防日常生活総合事業における住民主体の通いの場の一般介護予防事業の参加者数	高齢介護課	H33までに50カ所の通いの場立ち上げを目指す	増加指標	人	62,500	65,500	63,179	67,000	72,571	68,000	71,413	105.0%	70,000	通いの場の立ち上げ数を増やすことで、参加者数の増加につながり、目標を達成している。今後も事業を継続していく。	活動の担い手がおらず、通いの場の立ち上げが進まない地区があることから、民間事業所を活用した介護予防活動の場づくり等を進める。また、介護予防の普及啓発を促進し、既存の通いの場への参加者を増やしていく。	通いの場の箇所数の増加に伴い、参加者数は年々増加している。参加者延人数の目標値についても、3年間の目標値は達成することができた。引き続き、介護予防の普及啓発を行い、既存の通いの場への新たな参加者を増やしていく。
62	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	健康寿命	健康増進課	市民の平均寿命から介護を要する平均期間(要介護2以上)を差し引いた期間	増加指標	男:歳	78.03 (H26)	78.22	78.97	78.41	79.25	78.60	集計中	#VALUE!	79.00	健康寿命は増減を繰り返しながら、延伸している。R元年度は、H30年度高岡市健康・栄養調査で明らかになった課題の一つの「栄養・食生活」の推進を重点的に取り組み、ショッピングセンターでの健康講座の実施や、「高岡こどもまつり」「国境なきUNDOKAI」「市民健康フォーラム」等あらゆる機会をとらえ、普及啓発に努めた。	H30年度高岡市健康・栄養調査で明らかになった課題「身体活動・運動」「心の健康・休養」の推進を年度毎に実施する。また、若壮年期や無関心層へのアプローチとして、健康づくりボランティアや保育所・認定こども園等の各種団体と連携し、「健康たかおか10か条」の普及啓発に努める。	健康寿命は増減を繰り返しながら、延伸している。健康寿命の延伸は、高岡市健康増進計画「健康たかおか輝きプラン(第2次)」の基本目標である。新たに健康づくり市民行動目標「健康たかおか10か条」を定め、各種事業で普及・啓発に努めている。H30年度に高岡市健康・栄養調査を実施し、1日の平均歩数の減少や、朝食を摂らない人の割合が増加するなど、改善がみられていない項目を把握した。課題解決に向け、重点的に取り組むテーマを年度ごとに定め、R元年度は「栄養・食生活」の推進を重点におき普及啓発を行った。
63	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	健康寿命	健康増進課	市民の平均寿命から介護を要する平均期間(要介護2以上)を差し引いた期間	増加指標	女:歳	83.55 (H26)	83.64	83.44	83.73	84.09	83.82	集計中	#VALUE!	84.00	健康寿命は増減を繰り返しながら、延伸している。R元年度は、H30年度高岡市健康・栄養調査で明らかになった課題の一つの「栄養・食生活」の推進を重点的に取り組み、ショッピングセンターでの健康講座の実施や、「高岡こどもまつり」「国境なきUNDOKAI」「市民健康フォーラム」等あらゆる機会をとらえ、普及啓発に努めた。	H30年度高岡市健康・栄養調査で明らかになった課題「身体活動・運動」「心の健康・休養」の推進を年度毎に実施する。また、若壮年期や無関心層へのアプローチとして、健康づくりボランティアや保育所・認定こども園等の各種団体と連携し、「健康たかおか10か条」の普及啓発に努める。	健康寿命は増減を繰り返しながら、延伸している。健康寿命の延伸は、高岡市健康増進計画「健康たかおか輝きプラン(第2次)」の基本目標である。新たに健康づくり市民行動目標「健康たかおか10か条」を定め、各種事業で普及・啓発に努めている。H30年度に高岡市健康・栄養調査を実施し、1日の平均歩数の減少や、朝食を摂らない人の割合が増加するなど、改善がみられていない項目を把握した。課題解決に向け、重点的に取り組むテーマを年度ごとに定め、令和元年度は「栄養・食生活」の推進を重点におき普及啓発を行った。
64	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	国民健康保険特定健康診査受診者における高血糖有所見者の割合	保険年金課	国保データベース(KDB)システムのデータを活用した、特定健康診査受診者に対するHbA1c(ヘモグロビンエイワンシン)5.6%以上の割合	減少指標	%	77.6	72.8	77.3	72.5	74.4	72.2	78.4	91.4%	71.6	目標を達成しておらず、H29年度及び30年度よりも増加している。これは、年々特定健康診査の受診率が向上し、これまで健康状態が不明であった被保険者が健康診査を受けたことで、HbA1c5.6%以上の該当者の割合が増えたためである。実績値の上昇は、本市における真の健康課題が表面化してきた証といえる。今後も有所見者の発見を生活習慣病の早期発見の機会と捉え、受診率の向上と健康状態不明者の解消を図るとともに、有所見者に対して個別の保健指導を行うことで有所見者の減少及び生活習慣病の早期改善、重症化予防を目指す。	本市は高血糖有所見者の割合が高く、重点的な取り組みが必要であるため、生活習慣の改善を促す特定保健指導実施率向上を目指し、R2年度より特定保健指導実施機関を5医療機関から13医療機関へ拡充する。また、糖尿病性腎症重症化予防事業として、高岡市医師会と連携した既存事業に加え、過去に糖尿病受診歴があるものの、直近で糖尿病治療がない者に対して、継続的な受診を促す事業に取り組む。	過去2年間は目標値に達していないが減少傾向であったものの、R元年度はH30年度実績よりも増加した。有所見者の把握を生活習慣病予防の契機と捉え、今後もより一層保健事業の推進に注力していく。
65	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	②医療体制・医療制度の充実	市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率(紹介率)	市民病院	紹介率:A÷(B-C)×100 逆紹介率:D÷(B-C)×100 A:紹介患者の数、B:初診患者の数、C:休日夜間救急患者の数、D:逆紹介患者の数	増加指標	紹介率(%)	31	40	41.4	43	63.5	46	68.5	148.9%	50	引き続き、人口増の地区や本院入院患者が多い地区などへ院長をはじめ幹部が重点的に開業医訪問し、本院の強みをPRしていく。また、R元年度に導入したダヴィンチの術件数を増やすため、PRを強化、本院への紹介患者の増加へつなげていく。	開業医訪問などの活動が結果し、目標値を超えたことで地域医療支援病院の承認を得られた。今後もさらなる地域連携の強化を図るため、開業医との信頼関係の深化に努め、紹介患者数の増加につなげるとともに、経営基盤の安定化を目指していく。	
66	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	②医療体制・医療制度の充実	市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率(逆紹介率)	市民病院	H33の目標値は、地域医療支援病院である厚生連高岡病院のH26実績並みの数値	増加指標	逆紹介率(%)	43	60	56.8	63	92.2	66	97.2	147.3%	70	地域医療機関への迅速な返書の送付 逆紹介数を増加させるため、引き続き担当課から本院医師向け逆紹介の方法等をレクチャーする。 また、R元年度に導入したダヴィンチを活用し、高岡医療圏内の開業医との交流を深め、逆紹介しやすい環境の構築を図る。	地域医療機関への迅速な返書の送付 逆紹介数を増加させるため、引き続き担当課から本院医師向け逆紹介の方法等をレクチャーする。 また、R元年度に導入したダヴィンチを活用し、高岡医療圏内の開業医との交流を深め、逆紹介しやすい環境の構築を図る。	逆紹介率が年々増加し、目標値を上回り地域医療支援病院の承認を得られた。伸びた要因として、本院医師の逆紹介に対する意識の向上が考えられる。今後も転入医師等への逆紹介フローのレクチャーなど、きめ細かく説明するほか、開業医との信頼関係のため、引き続き、迅速な返書の送付に取り組んでいく。
67	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	①環境保全意識の高揚	住宅用太陽光発電の能力合計	地域安全課	H33には標準世帯の能力(4kw)の約2,000世帯相当を目指す	増加指標	kw	5,138	6,000	6,191.1	6,500	6,653.1	7,000	7,099	101.4%	8,000	目標値を達成しており、順調に推移している。ただし、太陽光発電システム単体への補助は廃止としたため、引き続き、啓発等を行うことで再生可能エネルギーの導入を推進する。	自家消費を促進するため、太陽光と併設の蓄電池に加え、新たにV2Hシステムへの補助を実施していく。	目標値を達成しているが、引き続き、低炭素型社会の形成に向け、啓発等を実施していく。
68	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	①環境保全意識の高揚	こどもエコクラブ数	地域安全課	幼稚園・保育園、認定こども園の全体の60%加入を目指す	増加指標	園/年	21	25	28	27	32	29	32	110.3%	33	目標値を達成しており、今後も事業を継続していく。	新規園に直接訪問して説明するなどし、参加園を確保していく。	目標値を達成しており、今後も事業を継続していく。
69	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	②環境保全対策の充実	美化協定団体数	環境サービス課	毎年1団体ずつの増加を目指す	増加指標	団体	47	51	53	52	52	53	49	92.5%	55	各協定団体の高齢化等による参加人数の減少により、事業継続が困難であるとの理由で、R元年度は3団体の減少となった。引き続き、市広報誌等を使った新規加盟募集の呼びかけを行う。	積極的に活動している協定団体の活動状況等を市ホームページ等に掲載し、より効果的な広報活動を行っている。	H29年度は、2団体の新規加盟があったが、H30年度以降は実績は無く、団体数は毎年減少している。市広報誌等で広報を行ったが、毎年の増加にはつなげていない。
70	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	②環境保全対策の充実	美化重点地区の美化活動参加者数	環境サービス課	近年参加者数が減少傾向にある中、17,000人の維持を目指す	維持指標	人/年	16,912	17,000	16,800	17,000	15,545	17,000	14,965	88.0%	17,000	近年の人口減少、地域ボランティア活動の参加が減少していることが考えられる。引き続き、出前講座・市広報誌等を使った清掃美化活動の啓蒙・啓発と参加の呼びかけを行う。	R2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による自粛のため、更なる参加人数の減少が予想される。今後は、国の「新しい生活様式」に基づきながら、ソーシャルディスタンスの確保、作業する時間や場所、人数等に配慮して清掃美化活動を実施していただくよう呼びかけていく。	近年の人口減少、地域ボランティア活動の参加が減少していることが考えられる。今後は、国の「新しい生活様式」に基づきながら、ソーシャルディスタンスの確保、作業する時間や場所、人数等に配慮して清掃美化活動を実施していただくよう呼びかけていく。
71	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	ごみの再生利用率	環境サービス課	ごみの分別の徹底し、リサイクル率の維持に努める	維持指標	%	21.0	21.0	21.2	21.0	21.3	21.0	21.1	100.5%	21.0	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	プラゼロ運動などの取り組みにより、ごみ資源化の啓発活動を継続していく。	H29・H30年度ともに目標値を達成しており、引き続き、プラゼロ運動などの取り組みにより、ごみ資源化の啓発活動を継続していく。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	担当課	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 (目標値)	H29年度 実績値	H30年度 (目標値)	H30年度 実績値	R1年度 (目標値)	R1年度 実績値	R1年度 達成率	R3年度 (目標値)	分析と対応	R2以降の取り組み内容等	3年間の分析と対応
72	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	ごみの排出量	環境サービス課	ごみの発生抑制を推進し、ごみの減少を目指す	減少指標	t	62,082	61,530	61,489	61,180	61,015	60,830	60,162	101.1%	60,130	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	プラゼロ運動やフードロス削減などの取り組みを進め、ごみの削減を目指す。	H29・H30年度ともに目標値を達成しており、今後も事業を継続する。 ごみ排出量は減少傾向にあるが、引き続き、プラゼロ運動やフードロス削減などの取り組みを進め、ごみの削減を目指していく。
73	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	埋立ごみ搬入量	環境サービス課	ごみの分別を徹底し、埋め立てごみの減少と焼却量の減少に努める	減少指標	t	7,656	7,595	6,294	7,560	6,212	7,525	6,246	117.0%	7,455	目標値を達成しており、引き続き埋立ごみの減少と焼却量の削減を目指し、ごみの分別の周知・継続を徹底していく。	埋立ごみの減少と焼却量の削減を目指して、ごみの分別の周知・継続を徹底していく。	H29・H30・R元年度ともに目標値を達成しており、引き続き、埋立ごみの減少と焼却量の削減を目指し、ごみの分別の周知・啓発活動を継続していく。
74	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	校下(地区)連絡協議会設置数	総務課	年間3校下を目標にH33年度までに36校下での実施を目指す	増加指標	地区	18	24	25	27	30	30	31	103.3%	36	R元年度は積極的な自治会への説明を行ったため、目標値を上回る校下で連絡協議会の設置を達成できた。	校下連絡協議会未設置の博労、古府、太田、西五位、五位山地区に対し連絡協議会設立に向け、呼びかけを行う。	現時点で目標値を上回っており、順調に進捗している。引き続き、全ての校下(地区)において連絡協議会を設置してもらえよう、説明を行っていく。
75	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	わかまち訓練の実施地区数(累計)	総務課	H33年度までに36校下で風水害をイメージした防災訓練を実施する	増加指標	地区	6	11	10	19	20	25	24	96.0%	36	概ね計画どおりの校下で実施しており、36校下での防災訓練実施に向け準備を進める。	R2年8月30日に高岡市総合防災訓練の実施を予定しており、対象校下は成美、能町、二上、万葉の4校下を予定している。 令和3年度以降については、水害が想定される校下を対象に、順次、わかまち訓練を実施する。	目標値は下回っているものの、おおむね順調に進捗している。引き続き、高岡市総合防災訓練を通じ、36地区に対して防災知識の普及・啓発を行っていく。
76	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	デジタル化に対応した防災行政無線子局設置数	総務課	5年間で37子局の設置を目指す	増加指標	局	87	105	99	112	105	123	118	95.9%	142	子局設置地区の変更もあり、R元年度は土砂災害が想定される守山・中田地区に計13局の子局を設置した。	これまで整備してきた子局とあわせ、携帯電話(緊急通報メール、市防災情報メール)やテレビでのL字放送、民間防災アプリ等を有効に活用し、災害時における情報伝達を図る。	計画策定時の目標値には達しなかったが、R元年度までに、突発的な災害(津波被害や土砂災害)が想定される区域への子局設置が完了した。これにより近年頻発している台風や集中豪雨等による土砂災害対応時における情報伝達手段がひとつ増えた。
77	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	②消防・救急・救助体制の充実	救命講習会修了者数	消防本部	毎年1,350人維持を目指す	維持指標	人/年	1,326	1,350	1,586	1,350	3,218	1,350	3,294	244.0%	1,350	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	組織目標の共有・実現に向けて、職場ミーティングや人事評価制度の目標設定、面談などに取組み、各職員の組織目標に対する理解向上と目的意識の高揚を図り、市民に信頼される行政を目指す。	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
78	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	②消防・救急・救助体制の充実	防火防災講習会参加者数	消防本部	予防事務結果集計等を利用毎年150人の増加を目指す	増加指標	人/年	1,784 (H25-H27 平均値)	1,800	3,563	1,950	2,630	2,100	2,619	124.7%	2,400	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	今後は参加経験のない地域住民への働きかけや、今後の参加サイクルの平準化を図り、引き続き、地域住民などに対して防火・防災講習会を積極的に開催していく。	3年間連続して目標値を達成することができたが、参加経験のない自治会などが減るに従い、達成率は年々下降している。
79	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	③道路整備、交通安全・防犯対策の充実	交通安全教室の実施回数	地域安全課	小学校下相当数の回数を目指す	増加指標	回/年	21	22	23	23	22	24	22	91.7%	26	コロナウイルスの影響で中止になった教室が数回あり、目標値を達成できなかった。 次年度以降も感染防止に注意しつつ、実施を予定している。	座学だけでなく体験型の交通安全教室を取り入れ、実践しやすい教室内容に充実させる。また、開催地域に偏りがみられるため、市内全域で行えるよう実施の少ない地域に働きかける。	基準値は達成しているが、目標値には到達できなかった年度もあった。今後は新たな交通安全協会等関係機関と連携を取り事業を継続していく。
80	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	花いっぱい連盟会員数(個人)	花と緑の課	毎年5人の新たな会員を目指す	増加指標	人	772人	790	686	795	652	800	688	86.0%	810	昨年度から36人増加であるが、ほぼ例年並みである。花苗配布時、総会等の集会時、自治会への会員募集案内を引き続き行う。	イベント時等に積極的に会員募集を案内していく。	3年間を通して、花苗配布時、総会等の集会時、自治会への募集案内を行ってきたが、大幅な増加はみられていない。今後は新たな会員募集の機会を検討しなければ、これ以上の増加は見込めない。
81	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	花いっぱい連盟会員数(団体)	花と緑の課	毎年5団体の新たな会員を目指す	増加指標	団体	177団体	190	152	195	174	200	169	84.5%	210	昨年度から5団体の減少であるが、ほぼ例年並みである。花苗配布時、総会等の集会時、自治会への会員募集案内を引き続き行う。	イベント時等に積極的に会員募集を案内していく。	3年間を通して、花苗配布時、総会等の集会時、自治会への募集案内を行ってきたが、大幅な増加はみられていない。今後は新たな会員募集の機会を検討しなければ、これ以上の増加は見込めない。
82	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	市街地の緑地率	花と緑の課	都市公園及びその他緑地(施設緑地、地域性緑地)の面積÷市街化区域面積及び用途地域面積	増加指標	%	19.1	19.2	18.8	19.2	18.8	19.3	18.8	97.4%	19.4	緑地整備面積が0.04ha増加したが、微増であったため、昨年度の数値に留まった。引き続き、地域や民間による緑化推進に取り組む。 750.08ha÷3,985ha=18.8%	人口減少下において、公園の適正配置などの課題がある中で、地域や民間による緑化推進に取り組んでいく。	人口減少下において、公園の適正配置などの課題がある中で、地域や民間による緑化推進に取り組んでいく。
83	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑤河川・海岸の保全・整備	河川整備率	土木維持課	河川改修率	増加指標	%	86.1	86.3	86.3	86.5	86.9	87.7	87.7	100.0%	88.2	概ね目標どおり準用河川の改修を進めている。	今後も国庫補助金事業を活用し、計画的に河川改修を進める。	概ね順調に河川整備を進めてきたが、国庫補助金事業において、国の内示が想定を下回った場合には計画どおり河川改修が進まない恐れがある。
84	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑥雪対策の充実	民間消雪施設の更新・拡充	土木維持課	耐用年数を超過した43箇所の更新と新規箇所(年1件)の整備を支援する	増加指標	箇所/年	4	6	1	6	6	6	9	150.0%	5	相談を受けている組合への支援を行っている。	相談を受けている組合が複数残っており、連絡を密にしている。	相談を受けている組合への支援を行っている。
85	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑦上・下水道の整備	上水道管路の耐震化率	上下水道局	上水道管路全体に対する耐震管路の占める割合	増加指標	%	21.3	22.6	22.7	23.2	23.4	23.9	24.1	100.8%	25.1	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	全体(延長19.7km・金額1,718,393千円) R2【内訳】 ・老朽管布設替整備(6.4km:558,223千円) ・配水管路整備(3.4km:307,734千円) ・未普及地域整備(0.3km:27,336千円) R3【内訳】 ・老朽管布設替整備(3.2km:456,500千円) ・配水管路整備(5.4km:310,400千円) ・未普及地域整備(1.0km:58,200千円)	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
86	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑦上・下水道の整備	下水道普及率	上下水道局	行政区域内人口に対する処理区域内人口の占める割合	増加指標	%	93.3	93.8	93.9	94.0	94.1	94.3	94.4	100.1%	94.7	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	R2事業【内訳】 未普及地域解消(7.5km、872,000千円) R3事業【内訳】 未普及地域解消(7.0km、800,000千円)	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。
87	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑧消費生活の向上	消費生活に関する相談件数	共創まちづくり課	本市への電話、訪問、出張相談の合計件数 毎年500件の維持を目指す	維持指標	件/年	530	530	633	530	672	530	589	111.1%	530	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	引き続き相談体制を維持するとともに、複雑化する消費者トラブルに対応するために研修等とおして、相談員の資質の向上に努める。	3年の間にも相談内容の傾向が変化しており、その変化に即した相談業務を柔軟に行っており、引き続き、相談体制の維持が必要である。
88	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	①市民が主役の地域づくりへの支援	市民活動情報ポータルサイト登録団体の数	共創まちづくり課	毎年4件ずつの増加を目指す	増加指標	団体	156	164	155	168	153	172	148	86.0%	180	団体からの申し出により整理を行った。また、SNS等の普及により、登録団体数の伸びが落ち込んでいる現状である。今後の増加に向けて、登録検討中の団体、未登録団体への依頼、新たに組織化された団体の掘り起こし等を進める。	共創支援事業に関係する未登録団体に対して登録を促していくとともに、新たな団体の掘り起こしを図る。	H23年度の開設時から登録した団体の構成メンバーの高齢化が進み、解散の数が新規登録者の数を上回っている。近年結成した団体はSNSなどを活用して独自に情報発信を行っていることが多く、今後ポータルサイト運営については、見直しの検討が必要と考えている。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画) /基本目標(総合戦略)	施策	指標	担当課	算出方法及び補足説明	指標区分	単位	基準値	H29年度 (目標値)	H29年度 実績値	H30年度 (目標値)	H30年度 実績値	R1年度 (目標値)	R1年度 実績値	R1年度 達成率	R3年度 (目標値)	分析と対応	R2以降の取り組み内容等	3年間の分析と対応
89	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	①市民が主役の地域づくりへの支援	地域コミュニティセンターの利用者数(各地区の合計)	共創まちづくり課	ホール、会議室、図書館等の利用者数 年間180,000人の利用を目指す	維持指標	人/年	170,591 (H25-H27の平均値)	180,000	226,491	180,000	242,447	180,000	211,512	117.5%	180,000	目標値を達成しており、指定管理者として機能を果たしている。今後はコスト面も考慮し事業を継続する。	市内3カ所のコミュニティセンターにおいて、利用者身近な地元関係者が指定管理者となり、施設管理者と担当課のミーティングを行いサービスの水準を均一化する。施設条例の範囲内において可能な限り柔軟に対応することとし、市民に対し親切・丁寧・きめ細やかな運営を行う。	概ね順調に推移しており、地域の拠点施設として市民の活動の活性化に寄与している。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行の影響のため、減少傾向が認められており、指定管理者と協力して、新しい生活様式等に対応した適切な運営管理をしていく。
90	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	②多文化共生社会の推進	通訳・ホームステイ等のボランティアの登録者数	共創まちづくり課	本市で登録しているボランティアの数 毎年10人ずつの増加を目指す	増加指標	人	135	140	150	150	168	160	176	110.0%	180	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	引き続き、高岡市多文化共生プランに基づく施策に取り組み、多文化共生に対する理解を広めていく。	ボランティアの登録者数は増加傾向にある。今後も引き続き事業を継続し、更なる増加につなげるよう努める。
91	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	②多文化共生社会の推進	外国人のための生活相談コーナー(市役所1階)の利用者数	共創まちづくり課	在住外国人の生活上の課題を気軽に相談できる体制づくりを目指し、毎年2,700人維持を目指す	維持指標	人/年	2,699	2,700	2,419	2,700	2,366	2,700	2,631	97.4%	2,700	変動はあるものの概ね実績値は維持できている。今後も、相談窓口の周知を図る。	市役所窓口、市ホームページやフェイスブックでの周知、その他、国際交流センターや外国籍市民が集まるイベント(日本語教室、交流事業)等で広報を行う。	外国籍市民が長期定住化傾向にあることや、税金など制度改正があると相談件数の増減があると考えられる。一方で外国籍市民は増加していることから、相談窓口の周知を続け、目標達成に努める。
92	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	③男女平等・共同参画社会の実現	男女平等・共同参画に関する講座等の開催回数	男女平等・共同参画課	毎年40回の開催を目指す	増加指標	回/年	34	40	43	40	40	40	38	95.0%	40	年間42講座の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4講座を中止したため38講座の実施となった。R2年度以降も引き続き事業を継続する。	引き続き、市民ニーズや時勢に応じた内容の講座を開催する。新たに、男女平等推進センター活動登録団体の要件として市民を対象とした講座の実施などを加えることにより、人権教室については、開催校を増やすなど開催方法を検討する。	H29、H30と目標値を達成した。R元も達成を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、4講座を中止したため、目標値を下回った。今後は、新型コロナウイルス感染症の状況等を考慮しながら、引き続き事業を継続する。
93	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	④平和な地域社会の形成	人権セミナーの参加者数	共創まちづくり課	毎年10人ずつの増加を目指す	増加指標	人/年	352	360	368	370	346	380	315	82.9%	400	一般の方に来場いただくための更なる周知が必要である。また、小学校での人権教室を開催しているが、児童数の減少から大人数での開催が困難となってきている。	世の中の動向を見ながら興味を引く講師を選定する。各種団体等に声をかけ、集客を図る。人権教室については、開催校を増やすなど開催方法を検討する。	講演会は関係団体に声掛けを行うことで、集客数が増えた。人権教室は、児童数の減少から100人規模の開催ができなくなってきている。今後は開催校を増やすとともに新たな対象やその手法について模索しながら、人権啓発を進めていく。
94	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	①市民に開かれた市政の推進	まちづくりの出前講座の年間参加者数	都市経営課	毎年4,000人の参加者数を維持する	維持指標	人/年	3,904 (H23-H27の平均値)	4,000	4,682	4,000	5,947	4,000	5,540	138.5%	4,000	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。(防災関連の講座が人気があるほか、令和元年度は改元の影響で「高岡と万葉」講座の実施が増えた。)	行財政改革の推進に伴う事務事業等の変更を踏まえ、新規事業や時宜に即した内容の新規講座の開設のほか、既存講座の内容や名称の見直しなどの検討を進める。	3年間目標値を達成しているが、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、5月末現在実績なし。今後は、新型コロナウイルス感染症の状況等を考慮しながら、引き続き事業を継続する。
95	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	②高度情報化の推進	オープンデータの掲載データ数	広報情報課	機械判読に適した形式のデータ数(第3段階以上:CSVなど) 毎年5件ずつの掲載を目指す	増加指標	件	13	20	13	25	18	30	34	113.3%	40	R元年度から、毎月「地区別・年齢別高齢者数」をCSVファイルにて掲載しており、目標数はクリアしている。一方で、オープンデータ全掲載数543件(R2年3月31日現在)のうち、機械判読に適した形式(第3段階以上:CSVなど)は34件と全体の約6%である。これまで、各課には、掲載できるものから取り組んできてもらったが、次の段階として、PDFファイルではなくWord,Excelへ、Word,ExcelからCSV形式へ、簡易に変換可能なものは対応してもらおうよう再周知する。	最新のデータを掲載するため、各課へのデータ更新(追加)依頼をする。その際に、PDFよりはWord,Excelでの提供が好ましいこと、ExcelファイルをCSV形式へ変換する手順を示す。民間の声を少しでも拾うため、データ公開ページに「オープンデータに関するリクエスト」するリンクを明示する。国の「推奨データセット」への対応を進める。	オープンデータ開始当初に、全課に働きかけをし、提供可能なものをほぼ掲載したため、データの種類の数はあまり増えておらず、年次及び月次での掲載があるためデータ数は増加している。今後は、データが古くならないよう、定期的な更新をかけるとともに、機械判読に適した形式への変換、増加しているデータを探しやすいよう取り組んでいく。
96	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	③簡素で効率的な行財政の推進	職員への信頼度	人事課	市民意識調査(窓口アンケート)の結果を利用	増加指標	%	88 (H28アンケート調査結果)	88	94	88	88	89	94	105.6%	90	目標値を達成しており、今後も事業を継続する。	組織目標の共有・実現に向けて、職場ミーティングや人事評価制度の目標設定、面談などに取組み、各職員の組織目標に対する理解向上と目的意識の高揚を図り、市民に信頼される行政を目指す。	3年間目標値を達成しており、引き続き事業を継続する。